

東日本大震災で被災された東北学院関係者の皆様へ(Ver.2b)

大学長・学院長・同窓会長 星宮 望

平成23年3月24日に予定されておりました東北学院大学大学院学位記授与式、大学卒業証書・学位記授与式および、平成23年4月5日に予定されておりました平成23年度東北学院大学入学式は、「東日本大震災」(名称：4月1日閣議決定)のため中止するという苦渋の判断をしなければなりませんでした。

一千年に一度の規模ともいわれる3月11日の大震災、そしてそれに続く原発の事故は、まさに未曾有の大災害をもたらしていることはご承知の通りです。東北学院大学では、震災発生直後から、教職員一同が全力を挙げて在籍学生12,217名の安否確認を行ないました。電話回線など連絡網が分断された中、確認作業は困難を極めて避難所まで赴いて確認するなどして、ようやく三週間を経て全員の安否を確認することができました。その中には誠に残念ながら、犠牲になられた方もおられます。また大切な肉親を失い、安らぎの家を失った方も多数おられます。心から哀悼の意を表し、天国での平安をお祈り申し上げますとともに、一日も早く安寧の日々が戻りますことを、お祈り申し上げます。

そして、多数の東北学院同窓生各位が被災されましたことにつきまして心からのお見舞いを申し上げます。我々の同窓生は、宮城県を中心とする東北地区においてそれぞれの地域における主要な諸活動を担ってきております。その中でも、岩手県・宮城県・福島県の太平洋沿岸地域の経済活動・産業活動などにおいてリーダーシップを発揮して主体的な担い手になっておられます。まさに、今回の大震災は東北学院同窓会の主要メンバーとその活動拠点を直撃したわけであります。今後、我々の母校・東北学院の存立する宮城県・東北地方における災害地の復興や地域社会の再生などの課題が山積しております。そしてこの壮大で挑戦的な課題への挑戦と新しい目標の実現に対しては世界が注目しております。これらの復興や再生を実現するためには、東北学院関係者一同が力を合わせて長期的な努力を積み重ねなければならないと思います。

これらを達成してゆくためには、東北学院大学の在籍生、教職員各位、同窓生各位とともに、東北学院において建学の精神をあらわす言葉として受け継がれている「地の塩、世の光」(マタイによる福音書第5章)の言葉を我々それぞれの心の中心においてしっかりした歩みをしていきたいと念願しております。

皆様のご健勝をお祈り申し上げます。